

株式会社サカタのタネ

〒224-0041
横浜市都筑区仲町台 2-7-1
<http://www.sakataseed.co.jp/>

会社概要

野菜や花などの種子・苗木・球根や農園芸用品の生産および販売をはじめ、育種・研究・委託採種技術指導、造園緑化・温室・農業施設の工事の設計・請負などを手がける農業分野の大手（東証一部上場）。国内のみならず、海外 19 カ国の拠点において、各地域の特性を生かした幅広い事業を展開している。現在、種子の輸出先は 130 カ国以上におよび、特にブロッコリーやトルコギキョウのシェアは業界トップクラス。

サカタのタネ

Google Apps for Business は
費用、性能とも他を圧倒。
メールの検索スピードや
セキュリティ機能にも大満足！

情報システム室長 鈴木紀孝氏



Lotus Notes® ではメール送受信に 30 秒ほど

国内のみならず、海外 19 カ国で研究、生産、営業の各拠点を連動させたグローバルネットワークを構築する一方、世界 130 カ国以上に商品を提供しているサカタのタネ。今や、日本を代表する世界的な種苗会社である。その同社が、2010 年 6 月に Google Apps for Business を 800 アカウント導入した。その経緯を、情報システム室長の鈴木紀孝氏は次のように言う。

「それまで 10 年間、Lotus Notes® を使っていました。バージョンは 6.5 のまま長らくアップグレードせずに使い続け、契約も更新していなかったのです。ところが、2008 年 9 月に、2010 年 4 月 30 日をもって 6.5 のサポートが打ち切りになると発表されました。このことも一つのきっかけとなって、メールシステムをはじめとするグループウェアの更新の検討を始めました」

Lotus Notes® は、普通に社内で使用している分には使い勝手は悪いものではなかったが、いくつか問題点があったと言う。「海外で Lotus Notes® を使ってメールを送受信するのに、非常に時間がかかるのです。セキュリティのために SSL-VPN を導入して対応していましたが、そのためクリックから送受信完了まで 30 秒ほどかかる場合もよくありました。海外出張に行く人から『何とかしてほしい』とよく言われていましたが、自分自身も経験していたので、そのじれったさは実感できました」

メール削除やデータ移し替え作業が発生

それだけでなく、海外にノートパソコンを持参して一旦メールの送受信をすると、日本に帰国後もおびただしい数のスパムが届くようになるという現象も見られた。

「多い人は、朝立ち上げると 1 日 100 件近くのスパムが届いていて、数十分かけて削除しなければならないという状態でした」と情報システム室の工藤亜紀子氏は打ち明ける。もちろん、手をこまねいていたわけではない。ASP のフィルタリングサービスや「バラクーダ」などのファイアーウォール製品を試していたが、遮断し切れなかったり、設定に手間がかかるなどの苦勞をしていたのだ。

そして、従来のメールシステムには、1 人あたり 200MB 程度しか割けないという容量の問題があったのである。このため、メールのデータはすべてクライアント側にダウンロードし、サーバー側には残さないという対応を取っていた。このことで、主に 2 つの問題が生じていた。

「1 つは、不要になったメールを削除しなければならないという手間が全社員に生じていたことです。週 1 回は 1 時間くらいかけてその作業をするという感じで、かなりの時間の無駄がありました。もう 1 つは、データがクライアント側に落ちているので、端末を入れ替える際にデータの移し替え作業が発生していたということです」（鈴木氏）



情報システム室
工藤亜紀子氏



情報システム室長
鈴木紀孝氏



サカタのタネ ポータルサイト画面

Gmail は監査のためのゲートウェイが設定可能

鈴木氏は、種々の IT プロダクツのセミナーに参加するなどして情報を収集し、1 年間ほどの時間をかけて代替システムを模索した。そして、選択肢を 1) Lotus Notes® の最新バージョンのライセンスの買い直し、2) Microsoft の“BPOS” (Business Productivity Online Suite)、3) Google Apps for Business の 3 つに絞って検討。

「Google Apps はそれ以前にあるセミナーで知り、『これはいいな』と感じていました。今回のリプレースの検討開始に際して、すぐに想起しましたね」と鈴木氏は振り返る。

検討のポイントは、主にコストと機能・使い勝手の 2 点。その結果、Google Apps for Business に軍配が上がった。「費用は 5 年間のトータルで比較しましたが、Google Apps for Business はほかの 2 製品の半分以下という圧倒的な低価格でした。そして機能面では、Google Apps for Business はメールの容量が 1 人あたり 25GB とこれもほかに比べて圧倒的です。そのほか、Google カレンダー や Google サイト、Google ビデオ などもある点も魅力でしたね」（鈴木氏）

ちなみに、BPOS のメール容量は検討当時 1 人あたり 5GB と Gmail の 5 分の 1。さらに、Gmail にはオプションで 10 年間のアーカイブもつけることができ、内部監査への対応も可能だ。その上、Gmail には監査のためのゲートウェイを設定することもできる。「BPOS にはこのゲートウェイがつけられませんでした。この差も大きかったですね」と鈴木氏は言う。同社では直接エンドユーザーに向けた通信販売も行っており、大量の顧客の個人情報を扱っているからだ。そのため、以前からメールが社外に出る前に監査を経由させて個人情報が流出してしまうことを防いできたという経緯があった。

常に機能が更新されることも魅力

海外の拠点も Lotus Notes® を入れていたが、今回のリプレースは日本の本社だけのこと。「海外拠点の Lotus Notes® とアドレス帳を連携させていたので、それが使えなくなるデメリットは結構大きいものがありました。それでも Google Apps のほうが良かったということですね。また、

日本本社のリプレースはインパクトが大きいことなので、グループ会社に対してもいろいろな資料を用意して説明するなど慎重に作業を進めました」（鈴木氏）

リプレースにあたり、メールの移行作業が生じた。「過去のメールは捨ててしまおうと割り切れれば楽なのですが、捨てたくないという人が多いのです。その分、Gmail の容量の大きさは好評なのですが」と工藤氏。また、Gmail 導入直後はスレッド機能に対して好き嫌いが分かれ、不満を口にする人もいた。「私は案件ごとに過去のメールが一覧できるのは便利だと思っていますが、使い慣れていないと抵抗がある人もいます。その後、スレッドを解除できる機能が追加されて問題なくなりましたが、このように常に機能が更新されるのも Google Apps の魅力ですね」と鈴木氏は笑う。

役員が『いいシステムを入れたね』と高評価

Google Apps for Business と同時に、部長職以上に限定して Black Berry も導入。「メールやスケジュールがいつでもどこでもチェックできるのは非常に便利と好評。今後、一般社員にまで広げていきたい」と鈴木氏は言う。そして、社外はもちろん、海外からでもメール送受信などのスピードは格段に向上し、スパムもほぼ一掃された。「さらに好評なのは、メール検索のスピードと楽さですね。25GB 埋まっても瞬時に検索できるというのはすごいと思います。また、Lotus Notes® のようにフォルダ分けする手間がかからず、ラベルをつけるだけで簡単に整理できるのもいいですね」と鈴木氏は満足感を口にする。

そのほか、Google ドキュメント のフォームを使って簡単に社内アンケートを取ったり、部署ごとに Google サイト を使って情報共有のサイトを立ち上げるなど、徐々に活用が広がっているという。Google Apps のシングルサインオンインターフェースに対応した認証システムの「Cloud Gate」を実装して、セキュリティ確保とともに使い勝手を高めていることも活用度向上の要因だ。「役員から『いいシステムを入れたね』とほめられました（笑）。今後は、トップのメッセージや研修の記録などに Google ビデオ も活用していきたいと思っています。従来のテレビ会議システムはその場で見て終わり、でしたが、Google ビデオ はいつでも何度でも見ることができるのが良いですね」と鈴木氏は意気込む。

*Lotus、Lotus Domino、Lotus Notes は IBM Corporation の商標です。



お問い合わせ

Google Apps for Business の詳細については、<http://www.google.co.jp/a> をご覧くださいか、もしくは、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。

© Copyright 2011 Google

Google は、Google Inc. の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

© Copyright 2011 Google is a trademark of Google Inc. All other company and names may be trademarks of the respective companies with which they are associated. GECS 04/15/11